



喜多の楚

〜 終い天神 〜

天神さまこと菅原道真公は、ご誕生、ご昇神の両日とも二十五日であられた事から毎月二十五日は天神さまの御縁日とされます。中でも十二月二十五日は年内最後の縁日という事で、特に終い天神ともいいます。

戦後は欧米化の影響で、同じく二十五日のクリスマスが大きく取り上げられてきた為、現在は終い天神の影は薄くなってしまうが、かつては終い天神が年内最後の賑わいでありそのお参りは人々の楽しみでした。

季節的には寒さがいよいよ本格化する時期ですが、天神さまの代名詞ともいえる梅の花(早咲き)はこの頃から咲き始め、十二月二十五日は、梅の香り立つ、終い天神の日という事も忘れずにいたいものです。

〜 初詣のご案内 〜

当神社では例年通り御本社、御旅社ともに
一月一日
午前0時〜午後五時頃まで開門

いたします。また、新年のお守り、御神札などの授与も午前0時から開始致します。今年一年間のご奉告と、来年一年間の無病息災を併せて初詣にどうぞお参り下さい。

〜 御神札の祀り方 〜

基本的には、お受けになられる方が一番大事にしたい神さまの御神札をお祀りになられるれば結構ですが、本義に基づいてお祀りされるのであれば、①伊勢神宮、②地元の氏神さまの御神札、③個人的に崇敬されているお宮の御神札をお祀りされると良いでしょう。



三社造りの神棚の場合



一社造りの神棚の場合
(神宮大麻を先頭に、重ねてお祀りします)

〜 新年祈禱について 〜

新年のご祈禱につきましては必ず年内に御電話等でご予約下さい。飛び入りではお断りする事もございます。なお、一月四日から十日にかけては、茶屋町の御旅社ではご祈禱はお受け付け出来ませんのでご注意ください。

御本社 〇六一六三六一二八八七
御旅社 〇六一六三七一一五八六

〜 氏地案内「堂山町」 〜

当宮は氏地として、旧北野村村域である、北野連合、梅田東連合と、万歳町、西天満六丁目、中崎西二丁目一部、曾根崎一丁目一部の氏神さまとして鎮座いたしております。氏地案内の二回目は当宮御本社の西側に位置します堂山町についてです。

堂山町の名の由来は御本社の南西にあります太融寺のお堂の一つがこの町内あたりにあったといわれ、そこから名が起ったとされます。かつての太融寺は七堂伽藍を構える大きな寺院であり、町内には「堂の後」という地名の小字もありました。

中心を東西に貫く東通り商店街の道筋は当宮由緒によれば、天神さまが歩かれた道といわれ、天神さまに頭を垂れた「片葉の芦」の伝説も伝わっています。

江戸時代から昭和初期にかけては現在のフリーマーケットのような北野青物市場(通称屋根無し野市)も開かれており、当宮の夏祭の際には大いに賑わったそうです。またこの市場へ物資を運ぶ為の水路(天満堀川の掘割)も通っており、近在農村からの物流拠点でもあったようです。

戦後は歓楽街として大きく開発が進み、現代では日本屈指の繁華街となっています。

当宮の門前町として栄え始めた歴史ある町ですが、常に発展と開発が続いており、動き続ける大阪らしい町といえます。

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、
au、モバイルPC 対応



編者 網敷天神社 禰宜(神主)
白江 秀 知

白江 秀 知

